

東日本大震災 被災地からの報告

**5月9日栃木の根岸さんと赤野さんへ会いに、
10、11日宮城県石巻の高橋徳治さんの所へ行きました。**

根岸さん、赤野さんとのお話

栃木の根岸さん、赤野さんたちのグループの「みんなの未来野菜セット」。去年のスタートは5月4週の「たねまき」からでした。7年目を迎える今年は…福島原発の事故で作物の放射能汚染レベルがまだわからないため取扱いは未定となっています。

まずは放射能を測定してもらい、データを送ってもらうこと。測ってもらった分の費用は、会社で立て替え、できれば東京電力の補償で対応したい。でも補償金に関しては農協が取りまとめをしているのであまり当てにはならないようです。それでも東京電力に責任を取ってもらうべきという根岸さんに裁判のための弁護士のルートを紹介することにしました。ガイガーカウンター(簡易的な放射能測定器。土壤表面の汚染を確認する程度ならこの機械でもよい)も根岸さんたちへ送る予定です。

国の基準はセシウム 500Bq ですが、弊社としては、年間の自然放射線量の 1mSv の基準に合わせ、ドイツ放射線防護協会の計算値を元に算出したセシウムの数値 50Bq を基準として動こうと思っていることを伝えました(ヨウ素は半減期が 8 日。半減期が 30 年のセシウムの数値を重要視する)。農家にとっては苦しい立場を強いられるのかもしれないけど、根岸さんも赤野さんもそれが妥当だと理解してくれました。

ただ、セシウム 50Bq 以下であっても他の野菜がある中で「みんなの未来野菜セット」を注文してくれるのだろうか。会社としても不安を抱えていました。でも根岸さん、赤野さんに直接お会いして迷いはなくなりました。この放射能の問題に生産者としてやるべきことをやろうとしている根岸さんと赤野さん。会社の基準値以下なら一生懸命「みんなの未来野菜セット」を売りたい!と思いました。

真剣に安全な野菜作りに取り組む生産者の方たちとの繋がりによって私達は安心安全をいただいています。

「みんなの未来野菜セット」が販売できることになったら、放射能はゼロじゃないかもしれないけど、そこで生きている根岸さん、赤野さんたちをみんなの力で応援していきたいと思います。よろしくお願ひします。(瀧岡)

宮城県・石巻市の高橋徳治商店さんの水産加工品の工場の泥出しをしてきました。

工場に近づくにつれて、周囲の家屋の中には、地震や津波で傾いている家、流されて土台しか残っていない家があり、道の脇には山積みのガレキ、報道で伝えられていたことですが、あらためて被害の大きさを感じました。

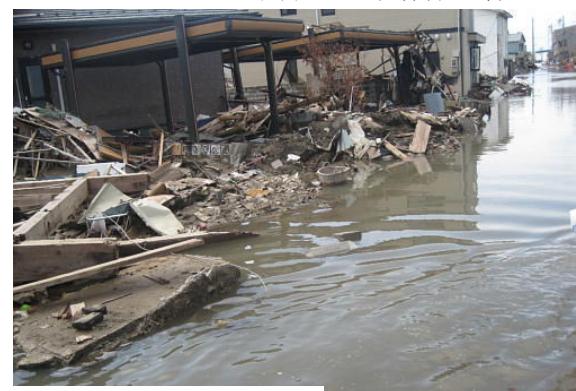
高橋さんの工場は建物の形を残していました。津波は工場の二階部分にまで達しており、二階にある事務所、休憩所内にも泥が積っていました。我々は一階の冷凍庫の泥出しをしました。冷凍庫内は津波によってかき回され、台車、商品が入った発泡スチロール(停電しているので腐敗している)などが散乱し、泥が数センチ積もっていました。泥は土、水、油が混ざり合った状態で重かったです。電気、水道は復旧しておらず、スコップで桶に泥を汲み入れて出口まで運び、外はフォークリフトで運び、集積場所で桶をひっくり返して泥を出すという作業を繰り返していました。

高橋さんは、もう一度、この石巻で再起したいと思いを話されました。『今は、この地は悲惨なことになっているが、大変だ大変だ、ということを伝えるのではなく、もう一度、リセットしてやり始めるんだという思いを伝えてほしい』と言われました。

高橋さんがやってきたこと、これから再びやっていこうとしているとは、漁業や水産加工品で石巻から本当にいいものを届けたい、ということだと思います。

石巻の港で質のいい海産物(漁法・温度管理・保存方法をより良く)が揚がって、それを使って、おいしいものを、消費者の声を聞いて作りたい。地域全体で良い水産品、水産加工品を作っていきたいという思いを感じました。

今、工場がある地域は行政の復興計画による建築制限が出されていて、この先 6 ヶ月間建て替えたりすることができないので、新しい工場での再起を目指しています。前途多難であると思いますが、これからも復興に向けた手助けができればと思いました。(丑山)



地盤沈下で灌水している



